

# 一 般 質 問



上村 忠 議員

**問** 携帯電話等の電波環境を改善する為の調査を求める

**答** 光回線を整備して、LINE 通話等、電話通話以外の情報伝達を確保し有事に備えた対応に努める。

ります。  
特に携帯電話等の移动通信システムにおいては、通常の通話やインターネット等の閲覧に留まらず、様々な分野に広がりを見せています。

我が町においてもRTK基地局の設置以降、トラクターの自動運転等、スマート農業に向けて進んでいる事から、山間部の農地における電波環境の改善を求められる事は必須であると思います。

また、防災減災においても、避難所となる地域のコミュニティセンターにおける、携帯電話等の電波状況についても、現状を把握する事が必要であると思います。

電波環境改善の方法については、光ファイバー網を活用し、WiFiを設置する、携帯電話事業者に要望してアンテナを設置してもらう等々、あると思いますが、まずは町内全域の電波状況の確認調査をするべきであると考えますが、町長の考えをお聞きます。

**町長** 携帯電話サービスは、社会生活全ての分野において普及され、必要不可欠な手段です。

そのような中で、求められるICTインフラ環境の条件不利地域解消に向けた光ファイバー網エリア整備が今金町でも進められており、今年度内の整備完了を予定しています。

光ファイバー網は、住宅や施設に回線を引き込み、無線局となります。また、WiFiルーターを設置し、建物内及び、その周辺でのインターネット接続が可能となります。

しかし、住宅から離れた場所等では、WiFi等の無線通信方式による情報通信環境整備が必要となり、2〜10km程度の範囲内に基地局を設置する必要があります。

農地では、地形条件等から、全てを包含する基地局設置の設備投資は、事業者において難しいものであります。

トラクターの自動運転は、携帯電話の電波を補正し、より高精度に測定するRTK測位基地局の設置により効果が活かされています。

各指定避難所の電波状況は、一部事業所で調べています。しかし、新たに中継局等を設置するには、町としても全ての事業者の新規契約件数は確保出来ませんし、各事業

者も踏み込まれるかは予想できず困難と推察します。  
町は、連絡手段の確保として、既に7か所の指定避難所には設置済みですが、残りの指定避難所でも、順次WiFiルーターの設置計画があり、光回線を引き込み、LINE通話等、電話通話以外の情報伝達手段を確保し、有事に備えた対応に努めます。

**上村議員** 調査状況にもありますが、予想よりも電波状況の悪い所が少ないかもしれないし、特定地域だけであれば、電波環境改善の投資も少なくなるかもしれませんが。いずれにしても詳しい調査をしないと分からない事だと思えます。

国の施策で、光ファイバー網の整備が進んだように、移動通信ネットワークにおいても、国が5Gの普及を進めるので、町内全域の電波状況を把握する事は、決して無駄にはならないと考えます。

**町長** 各事業者は、車での移動や、歩いて調査をしているのが実態です。全体を網羅して調査

をするのは難しいのと、町もそこまで踏み込んで行う事は出来ません。

また、重要な要素は屋内です。建物内でも電波が通じない所があり、各戸の家に入って調査を出来るかといったら、決してそうはなりませんし、そこまで踏み込んだ調査は、町として、中々成し得ません。

**上村議員** 私は、屋外調査をメインに考え、まずは、スマート農業という観点での農地調査。町職員で体制を組み、電波環境の悪そうな農地に大手3社の携帯端末を持って出向き、画面のアンテナ本数を確認し、地図上に記録するだけでも状況把握が出来ると考えます。

**町長** 今考えられる要素は2点。1点目は光ファイバー網。携帯電波より、確実に電波が来るので、全戸に加入して頂ければという思いが強いです。

2点目は防災行政無線。いざという時に携帯が繋がらない。その心構えとして、防災行政無線で情報を流す対応をします。

**上村議員** 通信ネットワーク環境の充実は現在の生活において必要不可欠である事は、いうまでもありません。今金町の通信ネットワーク環境は、光ファイバー網の全町整備によって各段に向上します。

また、携帯電話においては、通常仕様するよりも高い品質の問題の無い環境にあるといえますが、一部地域において電波環境の良くないところがあ